渡航最新情報「韓国・韓流＆新規コンテンツ」特集

ソウル、京畿道、仁川で「新・韓国文化」を体感

韓国観光公社（KTO）は6月15～19日、日韓交流が下半期に本格的に再開されることに先立ち、日本全国からメディア関係者を韓国に招いた4泊5日の視察旅行を行った。コロナ禍以降初となる視察旅行のテーマは「韓国の韓流と新規観光コンテンツ」。一般紙、専門紙、テレビ、雑誌など23メディアから計29人が参加し、最新の韓国観光トレンドを視察した。今回は、韓国の最新トレンドのほか、出入国時における検査関連情報を紹介する。

朱国際観光室長

視察旅行は、2020年3月以降休止されていた日韓間の航空便運航、観光ビザの発給が再開されたことを受け、日韓交流の再スタートを宣言し、変化した韓国の様子を紹介することを目的に実施された。

初日となる15日には、ホカンス（ホテル＋バカンス）が楽しめるパラダイスシティ（仁川）を見学。16日には、京畿道水原市で世界文化遺産の水原華城やカフェ通り、17日にはソウルで韓国大統領府として大統領公邸や執務室などが置かれ、5月10日から一般公開された「青瓦台」や、廃工場を改装したカフェなど人気のカフェが並び、韓国の若者が集う聖水洞、ナイトスポットとして人気が高まるソウルタワーを取材した。18日には、人気韓流ドラマ「梨泰院クラス」のロケ地である梨泰院を訪れるほか、3年ぶりにリアルで開かれた大型K－POPイベント「ドリームコンサート」を観賞した。本特集では、韓国を満喫できるコンテンツとして、ホカンス、青瓦台、韓流、グルメなどを紹介する。

仁川空港で一行を迎えたKTOの朱相鏞国際観光室長は「ソウルや京畿道では、一般開放された青瓦台や、最近韓国の若者にも非常に人気なエリアである聖水洞や梨泰院などを巡ってもらいたい」と、コロナ禍で生まれた新たな名所、見どころを紹介した。

ソウル

新コンテンツ続々誕生

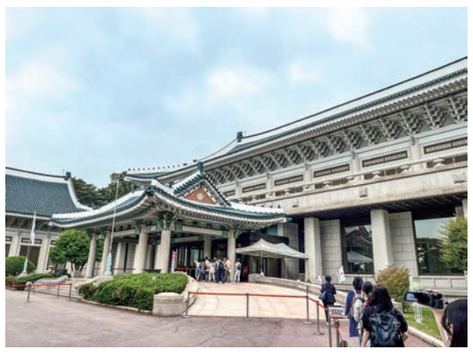
青瓦台（元大統領府）

「国の象徴」が5月から一般開放

韓国大統領府として知られ、公邸や執務室などが置かれていた「青瓦台（せいがだい）」が5月10日から一般に開放された。これは、今年5月に就任した尹錫悦大統領が、大統領府を同じソウルの龍山に74年ぶりに移したことから実現したもの。

本館では、赤いじゅうたんが敷かれた階段や、大統領執務室、大統領夫人の接見室などが見学できる。館内を見渡すと、隅々に豪華な装飾が施される様子が見られるなど、「国の象徴」を体感できる。

本館の隣には、歴代の大統領や家族が暮らした韓屋仕立ての官邸が建つ。内部には入れないが、窓の外からは居室や台所、ドレスルーム、美容室など、生活の一端を垣間見られる。敷地内には緑があふれ、来訪者が休憩できるテントなどが設けられている。


5月10日から初となる一般公開を開始

本館内には大統領執務室や豪華な装飾が

「国の顔である場所が、新たな観光スポットへと生まれ変わった」と現地ガイドは話す。

公開する時間は、午前9時から午後6時まで（休館日は火曜日）。6月12日からは、先着順となり、1日に4万9千人を受け入れている。一般に公開してから43日目となる6月22日には、観覧者が100万人を突破したという。

青瓦台の近隣には、カフェや図書館が並び、日本語対応できるボランティアガイドが町を案内している。韓食文化の歴史を学び、体験できる施設「イウム」では、食品名人カフェでティータイム、伝統酒ギャラリーで試飲が楽しめる。

官邸の窓からは生活の様子が見られる

韓食文化空間「イウム」では伝統酒試飲体験も

韓流ドラマ、K－POP

第4次韓流ブームの舞台を巡る

韓国ドラマ「冬のソナタ」から始まった韓流ブームが今、コロナ禍の巣ごもり需要を追い風にドラマ、K－POPが注目される第4次ブームを迎えている。ソウルの繁華街「梨泰院」は、2020年春から配信され、大ヒットした韓国ドラマ「梨泰院クラス」のロケ地として注目を浴びている。

梨泰院クラスは、前科持ちの主人公が居酒屋を梨泰院で開業。業界一の大手飲食企業の会長と対立するも、仲間とのし上がる物語。

梨泰院クラスの主人公が営む居酒屋（ロケ地）

4万5千人がコンサートに

梨泰院には、主人公が開いた店やヒロインと出会った場所など、徒歩圏内で多くの撮影地を訪れられる。現地を訪れていた米国在住30年の日本人女性は「コロナ禍で友人に薦められ、韓国ドラマを見始めた。心に刺さるストーリーが多く、現場で物語を感じたいと思い訪れた」と熱く語った。他にも、サウジアラビアから訪れたという女性2人組もいた。

視察旅行では、K－POPを肌で感じられる場所として「2022DREAM CONCERT」（主催はKTOなど）を見学した。会場には尹錫悦大統領が来場。K－POPを歌う計27組のステージに約4万5千人の観衆が湧いた。このほか、若者が集う街「弘大」では、大勢がK－POPやグルメを楽しんでいた。

若者が集い熱気ある弘大

事前申請で空港到着から出国がスムーズに

出入国制限措置の緩和、検疫に関する事前申請登録システムの導入などで、空港に到着してから出国までの時間の短縮が進んでいる。

韓国へ入国するには、入国許可証（ビザ）の手続きのほか、陰性証明書の用意、Q－code（検疫情報事前入力システム）への事前登録が必要になる。

陰性証明書は、出発時間の48時間以内にPCR検査を受ける必要があり、規定の項目が英語または韓国語で記載されていなければならない。韓国から出国する際にも、現地で出国時間の48時間以内にPCR検査を受検し、陰性証明書の取得が必要となる。

Q－codeは、専用のウェブサイトから事前登録ができる。英語または韓国語で登録しなければならないが、韓国総領事館のホームページなどから記載方法を記したマニュアルが確認できる。ウェブサイトでは、パスポート番号やメールアドレス、現地宿泊場所などを入力するほか、陰性証明書の直接添付が必要。登録完了後に出国時に提示が必要なQRコードが発行される。Q－codeを事前登録することで入国がスムーズになり、空港到着から出国までを20～30分で終えられる。

PCR検査は、入国後も必要。入国後3日以内でのPCR検査が義務付けられている。今回のファムツアーでは仁川空港到着後に、空港側の検査センター「仁川空港第1ターミナルコロナ19センター（西）」を利用した。価格は8万ウォン（約8千円）。検査は、受け付けから待ち時間を含め、約20分で終えられる。検査結果は約3時間後に確認できる。

帰国に向けた48時間以内に必要なPCR検査は、ソウルにある仁済大学校ソウル白病院で受検（検査費用は約2万円。陰性結果の確認まで約3時間必要）。入国後3日以内の検査、帰国時48時間以内の検査のいずれかが陽性だった場合は、視察旅行は仁済大学校ソウル白病院でPCR検査受検

韓国現地でも出国48時間以内でのPCR検査が必要

7日間の隔離措置を受けなければならない。

帰国に向けては、アプリ（My SOS）から検疫手続きの事前登録「ファストトラック」（対応空港は、成田、羽田、中部、関空、福岡）を行うことで、スムーズに出国できる。到着から到着ゲートまで約30分で行ける。

今回のファムツアーでは、ビザについては韓国観光公社の支援で取得。7月からは、1年以内で何回も使用できる観光ビザが発行されている。

※検査に関する記載情報は6月19日現在のもの。

仁川空港側の検査センターでの検査の様子

仁川空港第1ターミナルコロナ19センター（西）

仁済大学校ソウル白大学でのPCR検査の様子（動画・QR）

水原（スウォン）

世界遺産「水原華城」で充実

ロケ地＆カフェ

全長5・7キロの城壁周りに新名所並ぶ

ソウルから車や地下鉄で約1時間の位置にある水原。町のシンボルである水原華城は、ユネスコ世界文化遺産に登録されている。全長5・7キロある城壁の周りには、多くの個性的なカフェが点在するほか、韓国ドラマ「その年、私たちは」など、ドラマロケ地がある。水原華城も韓国歴史ドラマ「イ・サン」などの舞台となるなど、周辺には主人公やヒロインの家やデートの舞台となる公園などロケ地を巡る人が訪れている。

水原華城のシンボルである蒼龍門や広大な城郭、城壁を楽しむ観光手段として、リムジンで周遊する「華城御車」（約30分）、気球に乗って空から一望する「フライング水原」がある。

華城御車で水原華城を一周

ロケ地には多くの観光客が

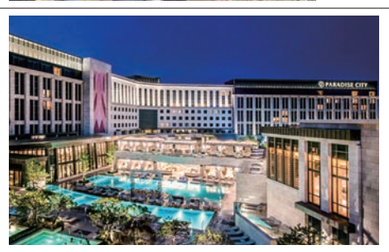
仁川（インチョン）

IRで「ホカンス」満喫

パラダイスシティ

カジノ、遊園地、スパ、ゴルフなど満喫

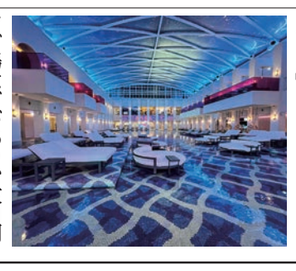
仁川国際空港からシャトルバスで約5分



仁川国際空港が所有する敷地に建設された北東アジア初のIRとして2017年4月に開業した「パラダイスシティ」（仁川広域市）。日本のエンターテインメント企業であるセガサミーホールディングス（HD）が、韓国でカジノの運営50年以上の歴史を持つパラダイスグループと共に共同出資で開発され、五つ星ホテル＆リゾート「パラダイスホテル」と外国人向けカジノ「パラダイスカジノ」、約2千人を収容するコンベンションホールなどを備える。

総面積約33平方㍍、東京ドーム約7個分の敷地内には、約3千点の芸術品のほか、プールやスパ、屋内型遊園地、ゴルフ場、ボーリング場などがあり、数日間を施設内で楽しめる。

屋内遊園地「ワンダーボックス」


プールやスパを備える「シメール」

セガサミーHD経営推進課の陳菲ディレクターは、「韓国国内の家族連れなどが、ソウルから1時間でホテルでの休日、各種施設でのバカンスの二つを一緒に楽しめる『ホカンス』ができる場所として人気を得ている。日本からも約2時間で訪れられ、日本では体験できないスケール感ある空間で休暇を楽しんでもらえれば」と来訪を呼び掛ける。

「食の宝庫」韓国でグルメ旅

韓国といえば、肉、野菜、海産物まで多種多彩な食材がそろう「食の宝庫」として有名。カルビやチキン、ホルモン、サムゲタン、トッポキ、ソルロンタン（牛骨スープ）などの絶品グルメが味わえる。また、飲食店では主菜に対し、たくさんの副菜が添えられ、毎回豪華な食事を楽しめる。

今回は、訪韓時に味わってほしいグルメ5選（メニュー、店名）を紹介する。

水原カルビ
（佳甫亭／カボジョン）

コプチャン〈ホルモン〉
（ソンスノル）

トッポッキ
（ドゥッキ）

サムゲタン〈参鶏湯〉
（土俗村／トソクチョン）

ソルロンタン〈牛骨スープ〉
（ウェゴチプ・ソルロンタン）

観光による交流再開、拡大を

韓国政府「観光契機に交流の扉開く」

歓迎晩餐会にて

晩餐会の様子

視察旅行の2日目となる16日の夜には、歓迎晩餐会が開催。韓国側からはKTOの徐英忠国際観光本部長、韓国文化体育観光部の金章鎬観光政策局長が出席し、観光による交流の再開、拡大への期待が述べられた。

徐国際観光本部長は、「コロナ禍で約2年間止まっていた空の便が再開され、各国の出入国管理規定も徐々に緩和されている。韓国ではビザを求める人が行列をなし、訪日旅行商品の予約が爆発的に増加するなど、両国民の旅行に対する熱意を感じている」と、観光をきっかけに交流への明るい兆しが出ていることを報告。「隣国である日韓の観光交流再開は重要であり、さらなる観光による交流拡大に向けて、日本の観光客が不自由なく安全に観光できるように最善の努力をする」と話した。

金観光政策局長は、「国連世界観光機関の発表によると、第1四半期の国際観光客数は1億人を突破し、最近では需要の急拡大から2022年の市場回復の見通しを上方修正している。韓国政府も観光を契機として積極的に交流の扉を開き、6月からは観光ビザの発給を再開した。ワクチン接種を受けていなくても隔離なしで韓国を訪問できるようになった」と世界各国に合わせた観光施策、受け入れ環境整備を進めていることを強調した。今後については、「航空関連の規制緩和による空路の回復はスピード感を持ち回復していく予定だ。年間1千万人の往来があった、コロナ前の姿に戻ることを期待している」と観光による往来拡大に期待を示した。

徐国際観光本部長

金観光政策局長

KTO徐本部長「安全な韓国観光へ最善の努力」